



持
入 遠子
2014
3

兵

興國



して此玉の存存るれいさまをいりし麻とくらほくらのあも目な
 ちま玉とやらん小國のるは粗す及びいしとあり。我玉の縁
 飾ふとして玉とく五穀しく実のり中りるるり天下にさひ
 るく。人皆風雅して法義をにちいふまに連したるはより皆
 満るる下と四はいける更のいりやしそらく産るる玉
 見るに應ふ植込る煙境拍よりくくの結まると眼で床
 よれた夢の一ゆあをみあふれりいりうりはさむ。我玉は
 も茶ふ結いおあふぬお産りりお産るの山お好れりうら
 りとありと。あひははりて茶けもふまはつと結よを務
 に入るるいりてりりぬ幣やちて書ふもい連下とらぐと

茶月にもとく。ころと取本のうりり連てまをるるをいし
 ろい。年もこの十の上りて二の綿の装白後の中玉の縁飾
 て茶まが梅の枝の出場入るやうに肯くうり込つめがよ
 とはふ吟つしい作うありて。ぬもく珍しおあふぬとく
 のあとして山玉なまれたは遠意りふりりもせもい返る花
 やい返るなれぬやうに。お慰ふお茶でも香でも味鞠でも
 二の沙吹打囀何れもおお人にあやせよ。おあ娘のいえ
 りも茶武の法が細言のよと小器用な女中うさうり
 そふな源氏お終りとい中く面やふあねまし。いさうめも
 茶やゆけい丈ふん好てござんをとりとりもせだおあとのこ

て鼻の穴へ鼻土の山吸ひて鼻血を流すもそを太くして
はとてぬもかきぬし女が方ののりなとありけとてぬ
私に何もあはぬ細法をてぬとてぬ人の目に入
まじやうに志すげふめて只すくと打りやめてある内
く衣敷に氣を付て見れば表に後陣はぬも裏に法
強きと給ぬのさけりけそかく着本條とてぬ。ふとぬと
とあふりよ田舎に教訓すげ。ゆかりとお休まねとて持て持
入ぬ念長のゆぬゆぬと。後を病くと甚重なるものぞとてぬ。
産婦とてあは遠ひやう。古書にて取あて屋根ううとの川の人
えるふふたう。今後陣をてぬか田舎持ぬの古婦入て

茶釜のふに薩摩芋焼て喰て病ふくと口を。茶を
もあはれ果て病ふりりり。あふり万病の氣とてぬ
見るに。妙は風信よ何ゆにても男女ともなるうい
かざるふり。沸ぬの心をゆに人も多くぬて。室は合の
しとぬ人もあはぬ。氣とてぬ。長とてぬ。いふいふ
まうりて。肉はぬぬぬ。老若とも今もぬぬぬぬぬぬ
もあはれ。ぬぬぬ。ぬぬぬ。ぬぬぬ。ぬぬぬ。ぬぬぬ
てぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



かのはげ生れたとあんずるとやうにて。まゝ生れた才一ぬ一

好古園

旅はうれをのこしとも。まは喰起野のまうに自由なりぬ世
の連む。和花を傷ハち死ふして揚と入之世話や此仙人之地
も同じ同せんして。そ程のまもも。野も亦。苗のんきいも。は。花
を同じ仙鳥も。は。い。る。後。も。ま。ま。と。喰。い。度。と。の。こ。君。の。梅。う。飯
敷の葉。淡。紅。尚。次。才。花。波。牙。何。ふ。ぞ。好。く。い。ふ。ハ。り。い。と。ま。
の。日。お。株。する。や。う。に。ま。ま。と。う。う。く。く。と。い。ふ。め。ぐ。う。お。け。い。は。れ。じ
そ。う。な。ま。あ。り。と。ま。中。の。後。飛。下。う。鳥。も。根。根。と。や。ま。ぬ。お
花。も。根。と。の。こ。と。是。也。い。む。う。程。の。ま。ま。人。大。智。也。

身う和花を傷らさぬうと云くうくすそへ好古をわうくすそめ
旅者とのえ法不見おのうのううなと甚く面白うて好む
此日本人の癖とやんとて毎日く大智をまうくすそめ
うそかーけり此世の風俗と云くは百れりううこの俗を
何れも此うれをのこしと云くは新上うははは
あり茶の湯はもたう百姓の耕作を町人のいふは
うこの法はてをあくしんももあれもまうくうう
かゝるものもまう茶の湯は男女の衣類を茶あつらよ
時花をわうくすそめ。唯此世の風俗風俗と云くは
とぬくまうく茶をわうくすそめ友人の風をそま似せてはのこ



和歌集卷之三

いかんかたねのふとさかあつて。聖人の婦人のふと成るもの
 かい幸抱せていて聖人とさうさうとあつてもいかにけはな
 也。自給のけけ水春の目あつて。あつて息と養つて一
 て言さうとほふ。情けやしやまが来ててもほふもけつては
 と冷泊飲で深ふ如母老人のまがらうと平と抱えにいさうさ
 ち野くいてねふらわけてあつて。母親のまがらうと悔とせよ
 胸のあつて火焼てまがらうと。長は抱えどもにねほほに
 ふ自由なるのちもあつて。さうさうさうさうさうさうさう
 け。後のわらぬもく。文育の母老人。や聖人とあつて。さう
 もろい。保るの養子ふ似ぬ親の鬼親志やとまがらうと。さう

け。このねの親子。咳つてさうさうさうさうさうさうさう
 和語集備三。和語集備三。和語集備三。和語集備三。和語集備三
 終ふ。親の和語集備三。和語集備三。和語集備三。和語集備三
 して。和語集備三。和語集備三。和語集備三。和語集備三
 養生

天竺のまがらうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ちやと片付折角のまがらうさうさうさうさうさうさうさう
 ちや。あまのまがらうさうさうさうさうさうさうさうさう

入虫箱のさつるに梅橙の皮飲てふべき。吟振ふも梅橙
 の皮との。物私に負てふとあらうも肩ととを
 へ。我身いどうも。世中。醫者も同。人。を。ね。し。て。も。何
 害とらるる。後。人。の。後。中。也。人。の。面。の。で。う。皆。う。う。遠
 有るもの。を。茶。に。ゆ。だ。ぶ。茶。も。針。湯。浴。も。何
 醫。れ。た。つ。ね。て。も。う。一。時。よ。う。か。い。し。ま。う。

夏子
 和歌集卷二



